

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	人文社会学群	3-1-1 (教育)
2.	理工学群	3-2-1 (教育)
3.	教育学研究科	3-3-1 (教育)
4.	地域政策科学研究科	3-4-1 (教育)
5.	経済学研究科	3-5-1 (教育)

人文社会学群

I	教育水準	3-1-2(教育)
II	質の向上度	3-1-4(教育)

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学群内に3学類、各学類に3専攻を設置して当該学群の教員が横断的・機動的かつ柔軟な教育組織で教育を担当する体制を整備するとともに、社会人教育を行う夜間主コースを設置し社会的要請に応じた体制を整備しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）アンケート、学生支援業務改善アンケート、教職員・学生共催の教育研究集会などを実施し、「授業公開」及び「授業検討会」（年10回）によって同僚教員との意見交換による担当授業評価を行っている。また、教員評価制度を導入し、平成19年度には大学評価・学位授与機構から「第三者評価の認証評価」を受けている。学類間の調整が必要な課題については教務委員会（年40回開催）を設置し、教育課程や教育方法等を検討することを通して教育内容・方法の改善を推進しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文社会学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文社会学群が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、4年間で一貫した教育体制をとり、1年次及び2年次での専門基礎科目、2年次及び3年次からの専門講義、実験、実習及び演習、4年次には卒業研究を課題とするなど、体系的・段階的履修が可能となる教育課程が編成されており、専攻間・学類間を超えて授業科目を柔軟に履修できる仕組みを導入し、教養教育と専門教育との有機的な連携の確保、文理融合の学際性の考慮などを図り授業科目の配置がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、文部科学省現代的教育ニーズ取組支援

プログラム及び文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託事業の採択により、社会のニーズに応えるコア教材や新しいプログラムの研究開発に取り組んでいる。また、県内外の他大学との単位互換（16大学）にとどまらず国外の13大学と学術交流協定を結び、うち5大学との単位互換や、キャリア教育と連動したキャリアガイダンスなど4年一貫の就職支援プログラムを実施するなど、学生の多様なニーズに応えるカリキュラムを編成しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文社会学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人文社会学群が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各分野の特性に応じた少人数授業、対話型授業、ワークショップ型授業及び体験的課題追求型授業は、ほぼすべての学年にゼミナール形式の授業を開講するなど適切な学生指導がなされており、外国語ネイティブ教員による少人数授業の実施やシラバスの充実に対して学生から高い評価を得ているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、アドバイザー教員の配置、オフィスアワー制度の導入のほか、学生によるティーチング・アシスタント（TA）、スタディ・グループ、スタディ・リエゾン（自主的集団学習における上級生からの援助）などの制度を設け、さらに自主学習環境の向上を図るため情報機器室の整備を行い、図書館の夜間開館時間の延長及び日曜日開館を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文社会学群が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率は 92.8%、所定の年限で卒業した者の割合は 84.0%であり、最終的な退学率は 3.0%となっている。卒業後の進路では正規教員の採用率で東北・北海道地区でトップと高い水準を維持し、国の機関・地方公務員等公的部門への就職でも教育の効果が見られるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業ごとの「教育改善のためのアンケート調査」を実施し、5段階評価で共通教育が 4.19、専門教育が 3.96 ポイントとなっており、学生と教職員共催による教育研究集会の開催を通じた授業改善に取り組み、教育研究の特色として少人数教育とゼミや合宿を含めた総合的な教育の効果があるという学生の評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文社会学群が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、人間発達文化学類では全国的に教員採用率が高い学部として位置する。行政政策学類・経済経営学類では公的部門への就職が半数近くを占めており、公的部門の中核を担う職種に就き、優秀な中堅層として卒業生を輩出しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、外部評価を実施し、就職先の関係者（教育委員会、市役所、銀行等）から卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力に関する意見を聴取し、「卒業生のイメージは『優秀で手堅い』」との教育成果を肯定する評価を受けているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文社会学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文社会学群が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理工学群

I	教育水準	3-2-2(教育)
II	質の向上度	3-2-4(教育)

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、理工学類は平成 16 年 10 月に全学再編体制の下に発足し、共生システム理工学類の 1 学類から構成され、教育課程を遂行するための専任教員が適切に確保され教育に当たっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、Cap 制、グレード・ポイント・アベレージ（GPA）成績評価制を導入し少人数の修学指導を継続する体制を取っており、「教育改善のための学生アンケート調査」による FD アンケート分析によると、専門教育の総合評価が高いなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理工学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理工学群が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、＜自己デザイン領域＞、＜共通領域＞、＜専門領域＞により系統的な学びを可能にしていることに加えて、少人数による修学指導を行うなど、教育課程が学群の教育目的を達成するために有効に構成されており、優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、「自然共生プロジェクト」など、地域との連携によるプロジェクトのほか、国内外の大学との単位互換制度、インターンシップや海外実習の実施等、学生からの多様なニーズに応えるプロジェクトを設け教育に活かしており、優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理工学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理工学群が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、多様でかつバランスの取れた授業形態を採用し、実践科目でティーチング・アシスタント（TA）を活用した上での少人数対話型指導体制を取り、シラバスについても学生が高く評価しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、全学体制で設けた学習領域「自己デザイン領域」を中心にして履修指導を行い、Cap 制と GPA 制度による成績評価を成績不振な学生への対応や優秀者の表彰に活用するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理工学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理工学群が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、年次進行中であるが単位修得率は約 93%であり、学生の資格試験への受験も進んでいるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「教育改善のための学生アンケート」によると、5段階評価で、共通教育が 4.05、専門教育が 3.72 となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学群の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理工学群が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

判定しない

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、いまだ卒業生を出していないため、卒業後の進路状況を判断できる状態にないことから、段階判定は行わない。

「関係者からの評価」については、いまだ卒業生を出していないため、関係者からの評価を判断できる状態にないことから、段階判定は行わない。

以上の点について、いずれの観点も「段階判定は行わない」との判断を行ったことから、進路・就職の状況は「判定しない」こととする。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学研究科

- I 教育水準 3-3-2(教育)
- II 質の向上度 3-3-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、研究科は専攻分野における理論と応用の研究能力を高めつつ、教育実践を創造的に推進する人材を養成することを目的とし、この目的を達成するために実践的な科目を配置し、教育課程を編成している。そして教育課程を遂行するために必要な専任教員を確保している。さらに、専任教員は主要科目及び基礎概論科目等の授業を担当しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育課程委員会、専修等連絡調整会議等の体制を敷いている。また、大学院教育の改善に対して特別ワーキングを編成して具体的な検討を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、専攻共通の科目を用意して、専修の枠にとらわれない学習・研究を促す仕組みを敷き、学校参観を中心とした教育現場に密着した科目も配置している。また、社会人や現職職員用にサテライト教室を利用した遠隔教育システムや昼夜間開講の授業を設けているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、地域社会の改革や発展に寄与する人材の育成の視点から多様な授業科目を配置している。学校臨床心理専攻では、郡山市、会津若松市、いわき市の3市のサテライト教室で双方向型の授業を行っている。また、文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）では関係機関と連携協同して、実践

的能力を持った教員を育成するためのコア教材を開発している、さらに地域のニーズに応えるために福島県から毎年 11 名の現職教員を院生として受け入れているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、一つは高度専門職業人と研究者を目指す人材の育成のために多様な授業科目を配置し、二つには社会人のキャリアアップとリカレント教育を重視してケーススタディ、フィールドワーク手法を取り入れた特別研究を配置している。また、社会人特別選抜生には長期履修生制度を導入している。教員は授業改善のために自己点検評価を行っている。そして受講生の研究テーマに即した授業内容を提供し、肯定的な高い評価を得ているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生定員に対する教育が確保され、丁寧な履修ガイダンスと研究指導が行われている。授業は多くが対面の授業で、レポート作成、発表等の主体的な学習ができるようにしている。また、学習環境でも大学院生の研究室を確保し、パソコンを配置し、図書館を夜間にも開館しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、留年、休学、退学が極めて少なく、就職も 6 割(正規教員が 5 割、臨時教員が 1 割)の者が教職に就いている。また、臨床心理士の資格申請も 10 名を超えている。さらに在学中の研究論文の学会発表も多いなどの相応な

成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成19年度に実施した大学院生に対する教育成果に関するアンケート調査によれば、資質・能力でほとんどの学生が「身についた」「ある程度身についた」と答えている。しかも社会の実践に生かす力、問題を多角的に捉える力等は1年次より2年次の数値が高くなっている。また、自由記述欄において大学院での学習が有意義であったことに関して、多く記述されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、正規教員5割、臨時採用教員1割、合わせて6割の者が教職についている。現在の教員採用状況を考えると、これは高い実績といえる。また、教員以外でもスクールカウンセラー、メンタルクリニック、心理判定員等の専門職についている。全体的にみて9割以上の者が何らかの職業に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生のアンケート調査結果によれば45%が「十分研究ができた」と答えており、全体の8割が「一定以上の研究ができた」と答えている。また、9割以上の者が「今の仕事に一定以上に役立った」と答えている。さらに福島市の三つの市の教育委員会との連携、あるいは県教育委員会と協働して教員養成と教員研修の在り方を探るワークショップやシンポジウムを開いて評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

地域政策科学研究科

- I 教育水準 3-4-2(教育)
- II 質の向上度 3-4-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員一名当たりの大学院生・学部生数も少なく、教育環境を一定の水準に整えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、修了生を含む学生アンケートの実施やファカルティ・ディベロップメント(FD) 活動、カリキュラム見直し等を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域政策科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、地域政策科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、地域政策学という地元と密着した方向性での教科課程の編成を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生定員の充足率が 50%前後であるが、学生・社会への期待に対応しようという努力がみられる（数値データは大学情報データベース「現況分析用データ分析集」2007 年度（平成 19 年度）を参照）などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域政策科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、地域政策科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、地元地域のニーズに対応した授業および学習形態を準備するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生のニーズに対応し、双方向型の授業を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域政策科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、地域政策科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了後、地域のさまざまな領域で活躍する人材を一定輩出するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修了生のアンケートによれば「大いに満足」が6割であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域政策科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、地域政策科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、地元の行政機関・企業を軸に、職につく

者が少なくないなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、学生及び地元自治体からの評価がおおむね良好な状況にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域政策科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、地域政策科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学研究科

- I 教育水準 3-5-2(教育)
- II 質の向上度 3-5-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、定員充足率が半分に満たない専攻もある（数値データは大学情報データベース「現況分析用データ分析集」2007年度（平成19年度）を参照）が、教員数、教員一名当たりの学生数はおおむね良好であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、大学院教育についての三本柱の体制のなかで、特に地元税理士会との連携講義をはじめとする地域連携・産学連携を図り、大学院設置基準改正に呼応した、教育内容、教育方法の改善やFD研究会の開催等の具体的取組のほか、さらに抜本的・本格的改革が開始され、平成19年度現在進行中であるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院修士課程においても、アカデミックコースを残しながら、プラクティカルコースを導入して実務者の要請に応えるなどの対応を取り入れ、修士論文に副指導教員2名をつけるなど独自の工夫をしている。また、成績評価基準を明示するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、地域経済政策コースが、自治体関係者の入学や公務員としての就職もみられるとともに、地域での産学連携や、科目等履修生の受入れ、転入学制度の導入等を実現するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、長期履修制度の導入や、図書館の開館時間の改善、社会人のキャリアアップとリカレント教育重視の各種工夫、開講時間の対応などを積極的に行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、大学院生の人数が少ない授業・演習があるものの、ガイダンス、パーソンツーパーソンの指導、大学院生専用室の整備などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位の修得状況や留学生へのアンケート結果からおおむね良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修了生へのアンケート調査の回答から、多くの学生が学業の成果に肯定的であることが推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、社会人、留学生が多い地方大学の大学院修士課程としては、プラクティカルコースの設置が功を奏して、良好といえるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生の半数を占める留学生の評価が高く、日本人・社会人の評価も良好であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。